



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第45号

2010年5月1日

平成22年度年次総会研究発表・シンポジウム

今年のテーマは「大和の歴史的風土をかえりみる」

5月30日(日)午前10時から春日大社で

国のまほろば 1300年の都・奈良でお会いしましょう！

5月30日(日)に春日大社社「感謝・共生の館」で開催される今年の年次総会・研究発表界・シンポジウムの概要が別紙(3頁)の通り決まりました。上田正昭理事長による記念講演「建都1300年と春日大社」に引き続いて行われるシンポジウムのテーマは「大和の歴史的風土をかえりみる」で、基調講演「春日山の社叢」は菅沼孝之副理事長が、パネルディスカッションには片岡智子理事や茂木栄理事に加えて国土交通省の担当者も迎え、奈良の歴史的風土について議論いたします。

前日の29日(土)には春日大社萬葉植物園や天然記念物のナギ林、復元された平城宮社の見学会も開催いたします。奮ってご参加下さい。

なお、正会員で総会にご欠席の方は必ず委任状をお送り下さい。

3人の社叢インストラクターが誕生！

総会で理事長が認定証を授与

先に実施された第3回社叢インストラクター資格認定試験の結果、資格取得に挑んだ3名が認証基準を超えると認められ、3月16日の第26回理事会で資格を認定された。

受験は第1回から第4回までの社叢インストラクター養成セミナーを修了し、地域での社叢管理や社叢学会の定例研究会・総会シンポジウムを聴講するなどの経験を積んだ者に認められ、今回は3名が受験した。

試験終了後、試験委員が直ちに採点し、それぞれ資格に恥じない知識・経験を認められ、

全員を合格とする意見を理事会に諮問、原案通り認められた。3人の合格者には、年次総会で理事長より認定証が手渡される。

合格者は以下の通り(順不同・敬称略)：濱上晋介、堀内大樹(以上正会員)、古谷朗子(市民会員)

お詫び：筆記試験問題Ⅱの問題1-(1)の解答例示が間違っておりました。誠に申し訳ありません。本問は全員を正解といたしました。これによる結果の変更はありません。

第6回社叢インストラクター養成セミナー受講者を募集！

I期は7月17日(土)～20日(火) 伏見稻荷大社で

第39回関東定例研究会

2010年2月20日(土)

(於：國學院大學渋谷キャンパス)



アフリカ・コンゴの鎮守の森

講師：J.P.Mukengeshayi Matata (オリエンズ宗教研究所所長・カトリック東京地区広報委員)

今回は、コンゴ民主共和国の地理的状況と植民地の歴史から、宗教、政治、家族意識、祖先崇拜、それらに関わる森について論じられた。

アフリカ・コンゴの人々にとって森はどのような存在であるのかを観察してゆくと、森は資源の宝庫であるだけではなく、先祖と親族とをつなぐ、かけがえのないものであることが見えてくる。また森の中で行われる祖先崇拜など、死者と生者が交わる様々な儀式を通して、アフリカ人の死生観も知ることができる。まさにアフリカの熱帯雨林は人々にとって死者の魂と生者を宿す「鎮守の森」であり、かけがえのないものであることが理解できる。そして今、近代化していく社会のなかで、アフリカ・コンゴの「鎮守の森」の破壊と家族形態の変化はどのように関係し合い、それが社会にどのような影響を与えているのかを、① マタタ氏の故郷であるコンゴ民主共和国がどのような国であるのか ② アフリカの家族形態・家族意識について ③ 森の思想からお金を中心とした生活への移行について の三つの部分に分けて考察している。

コンゴ民主共和国の名前はコンゴ川と植民地以前のコンゴ王国に由来する。アフリカ中央部を東から西に流れるコンゴ川流域は、経済・輸送の要になり、通商の大部分がこの川に沿って行われ、住民の日常生活を支えている。日本の約6倍強にもあたる国土面積を持ち、世界の90%を占める鉱物資源が産出される。タンタル、マンガン、コバルト、ウランなど希少金属の宝庫で、欧米の資源争奪戦をの舞台ともなり、代理戦争としての民族紛争を激化させ、本来豊かであったコンゴをますます貧しい国に貶めている。

コンゴ民主共和国は、1960年にベルギーからの独立を果たしたが、現在も政治・経済は混沌とした状態のまま、深刻な状況に陥っている。最も多いバントゥ系、ピグミー族等、200以上の民族集団があり、

多くの方言や地方語が話されている。宗教は、キリスト教が80%を占め、アフリカの伝統宗教が10%、イスラム教が10%という割合である。

アフリカの伝統的な認識で特徴的な点は、家族に対する概念である。共同体内の子供は自分の子供同様に大切にされる。土地は先祖が守る共同体共有のものであった。人の命は、森、水などと不可分のものとされている。森には神が宿り、先祖が見守る神聖な場所であり、通過儀礼や先祖との交わる儀式が行われる、神との出会いの場である。死者の魂と生者を宿す「鎮守の森」。しかし19世紀から現代に至るまでに、西洋の植民地政策および独立後の功利主義的政策は、一部のコンゴの住民の思想に影響を及ぼした、森は莫大な利益をもたらす商品として、人間の支配下におかれ伐採がおこなわれた。また土地は共同体所有ではなく個人が所有するものとされ、さらに十九世紀ヨーロッパの人類学者達はアフリカの種族を未開民族と名づけ、法律上、土地の所有権を与えるのは適当でないとして、アフリカの土地を Terra nullius(「誰のものでもない土地」)、vacant sans maitre(「主人のいない荒地」)とした。アフリカの人々は、植民地政策で先祖の土地を奪われ、先祖から受継いだ生活基盤を失った。サハラ砂漠以南にあるコンゴ・ウガンダ・ルアンダ・ブルンジといった国々の森と資源の利権争いも、1994年に起こったルアンダの大虐殺も、この森を個人の所有におことうとする資本主義自由経済がもたらした悲劇である。またアフリカの伝統的な大家族主義は、ヨーロッパ的な核家族化へと変化している。

アフリカ・コンゴの伝統的な観念や生活習慣は、自然の中に神を見出してきた日本の神道や日本人の習俗と類似性が高いという。キリスト教以前の人類共通の普遍的世界観を学んだ。

文責・大畑孝子

次回予告【第41回関東定例研究会】

- ◆日 時：6月19日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大学・渋谷キャンパス120周年記念1号館1階 1101教室
(東京都渋谷区東4-10-28)
- ◆テーマ：鎮守の森の景観復元と変容についての地域史的分析
—明治初年多摩地域の事例を素材に—(仮)
- ◆話題提供：畔上直樹(上越教育大学准教授)



平成22年度年次総会の概要



懇親会・エクスカージョンに参加ご希望の方は、5月21日(必着)にて、下欄ご記入の上、FAXもしくは郵便にてお送りいただくか、同内容をMailにてお知らせください。

	時間	内容
5月29日(土) 見学会	10:30	JR奈良駅・近鉄奈良駅集合：JR奈良駅から近鉄奈良駅経由で春日大社へ
	11:00~12:00	萬葉植物園見学
	12:00~13:00	昼食：春日荷茶屋で大和名物膳
	13:00~15:00	春日大社宝物殿見学の後、天然記念物春日山ナギ林を見学
	15:00	春日大社出発、平城宮社へ 自由見学・解散
	19:30~	一宮研究会：於 奈良県文化会館会議室
30日(日) 総会・研究発表・シンポジウム	10:00~	春日大社正式参拝
	10:45~	年次総会
	11:40~13:15	研究発表 ・都心に鎮守の森をつくる手法の提案 竹井隆人 ・宗教学から考える社叢研究の意義 藺田稔 ・一宮研究会成果発表
	14:00~14:45	記念講演「建都1300年と春日大社」 社叢学会理事長 上田 正昭
	14:50~17:00	シンポジウム「大和の歴史的風土をかえりみる」 14:50~15:30 基調講演「都をとりまく収奪された山々の嘆き」 社叢学会副理事長 菅沼 孝之
	15:40~17:00	パネルディスカッション パ ーチスト： 柳野良明・国土交通省緑地環境室長 宮前保子・(株)スペースビジョン研究所・関西大学工学部講師 片岡智子・社叢学会理事 茂木 栄・社叢学会理事 コーディネータ：菅沼孝之 コーディネータ：坂本新太郎・社叢学会理事
	17:30~	懇親会 於 天平倶楽部：ジャンボタクシーで移動

----- 研究発表・シンポジウムと関連行事参加申込書 -----

FAX：075-212-2916

* ご希望の行事の() 欄に○をおつけ下さい。同伴者がいらっしゃる場合は人数をお書き下さい。

- () 萬葉植物園・春日山ナギ林等見学会
(1人6,000円(昼食費込) 同伴者1人まで同料金 2人目からは1人6,500円) : 同伴 人
ご希望にそって○をお付けください
() JR奈良駅で乗車 () 近鉄奈良駅で乗車 () 萬葉植物園で合流
- () 研究発表およびシンポジウム(非会員は1人500円) : 同伴 人
- () 懇親会(1人5,000円:送迎タクシー代込 同伴者1人まで同料金 2人目からは1人5,500円)
: 同伴 人
- () 一宮研究会(無料)

会員番号

お名前

電話番号・Mailアドレス等当日連絡先

春日大社：平城京の守護のために創建された社で、768年（神護景雲2年）に、現在地に武甕槌命（タケミカツチノミコト）（＝第一殿：鹿島神宮から）、経津主命（フツヌシノミコト）（＝第二殿：香取神宮から）、天児屋根命（アメノコヤネノミコト）（＝第三殿）、比売神（ヒメガミ）（＝第四殿：いずれも枚岡神社から）が祀られる四所の神殿が創設されたのが始まり。藤原氏の氏神で、境内には標高295mの御蓋山全域の山林部、社頭から西方の飛火野、雪消の沢一帯の芝原、若宮おん祭の御旅所から一の鳥居に至る参道周辺を含む平野部が含まれ、全域が昭和60年国指定の史跡。平成10年12月には、春日大社や春日山原始林を含む「古都奈良の文化財」がユネスコの世界遺産に登録された。

萬葉植物園：昭和7年に昭和天皇の下賜金によって開園された、約300種の萬葉植物を植栽する我国で最も古い萬葉植物園。約3haの園内は、萬葉園・五穀の里・椿園・藤の園に大きく分けられ、萬葉園の中央の池のある中ノ島には「臥龍（がりゅう）のイチイガシ」と呼ばれる奈良市指定文化財の巨樹が幹を地に長く臥せて繁っている。園内には万葉名で詠まれた植物の8割以上の標本が、それにちなんだ歌とともに展示され、額田大王で有名なムラサキも見るができる。南端には、春日大社の社紋が藤の花であることから「藤の園」が造られ、20品種・約200本の藤の木が植栽されている。

春日荷茶屋：春日大社直営で、江戸時代末期の『大和名所図会』にも描かれている。万葉集にちなんだ食材が用いられた月替わりの万葉粥が有名。

宝物殿：春日大社の信仰と歴史の息づく国宝重文520点を含む3000点以上を収蔵。現在、「平城遷都1300年記念展示 平安の正倉院Ⅰ－春日大社神殿の秘宝－」が開催されており、平安時代の最高傑作で、日本の工芸品を代表する蒔絵箏（まきえのこと）や金地螺鈿毛抜形太刀（きんじらでんけぬきがたち）や、第四殿に比売神を祀っていることから、蒔絵を施した手箱（化粧道具箱）や鏡、鏡台など、王朝の姫君ゆかり品や、撰閑家の貴公子のために作られ、奉納された飾剣や毛抜形太刀などが展示されている。

春日山ナギ林：石灯籠の立ち並ぶ奥の森には、殆どがナギの木だけという純林が多く見られ、極めて稀であるとして大正12年に天然記念物に指定された。ナギは九州などで自生する木で、春日大社のものは、平安時代頃に献木され、鹿も食べないところから繁茂して樹林を形成したのだと考えられている。中には樹齢が850年と考えられる木も確認されており、春日社では古くから榊の代わりに神事に用いられている。

平城宮跡：平城遷都1300年記念事業のメイン会場。平城宮最大の宮殿である「大極殿」が復元されたほか、会場内の平城京歴史館では、当時の国際交流の象徴的存在である遣唐使船の原寸大（全長約30m、マスト高約15m）復原が展示されている。また、外国使節団が見た平城京を最先端のVR技術による再現上映や大陸との交流によって発展した我が国の国づくりの歴史や往時の文化・暮らしに焦点を当てたテーマ展示で平城京を体感できる。さらに、発掘調査で見つかった遺構をそのまま見ることができる遺構展示館では内裏や役所の復原模型を展示しており、1300年祭の開催に合わせ、展示等が一新された。

※ 見学会はここで解散、自由見学といたします。帰路の交通機関として、近鉄大和西大寺駅行きと、JR奈良駅行きの無料シャトルバスが運行されますので、ご利用ください。

第25回 中部定例研究会 報告

2010年3月20日
(於：久能山東照宮)

(国史跡)久能山東照宮の社叢

話題提供 落合 偉州 (久能山東照宮宮司)
 コメンテータ 岡村 穰 (社叢学会理事・名古屋市立大学教授)

春分の日を挟んで3連休の初日、東名高速道路で名古屋東インターに入る前から渋滞に巻き込まれているうちに、次々と新しい渋滞情報が。ようやく辿り着いた岡崎インターで降りて、近くの駅から名古屋鉄道で豊橋へ。新幹線に乗り換えて静岡駅で駅前タクシーに「最も早く久能山東照宮へ行けるルートで」と懇願して着いたのが、表参道石段下の鳥居前。カバンと垂れ幕を抱えて、石段を駆け上がり、定刻15分前に着くことができた。遠方から万難を排してご参加いただいた皆様に、篤くお礼を申し上げます。

駿河湾が一望できる社務所の会議室に集合後、創建当時の華麗な姿に改修された境内を、(社)全国国宝文化財所有者連盟(全文連)理事長の肩書も持つ落合宮司の案内で巡った。楼門まで1,100段、本殿まで1,156段の石段を登ることになった。

壮麗な権現造りの社殿

境内は約6.5ha。7世紀に秦氏の久能忠仁が久能寺を開き、1568年に武田信玄が久能城を築き、1616年4月17日に徳川家康の「没後、その日のうちに久能城の裏に墓を」との遺言によって墓が建立された。同年5月に城を潰して、二代将軍徳川秀忠によって久能山東照宮が着工された。日光東照宮大造営の19年前に壮麗な権現造りの社殿が造営されることになる。家康の命日である4月17日に例祭を行う。死後1年たって御魂を日光に移した名残で、日光では5月17日に例祭を行い、「千人武者行列」が行われる。当初の社殿は桧皮葺であったが、50年後辺りから銅板葺きにし、屋根の銅板には黒漆が塗られている。墨は通常アブラギリの煤から作られるが、エノキの煤で作られた駿河墨を漆に混ぜて、拝殿の塗装にも使っている。廃仏棄釈までは、本殿に向って右側に薬師如来が本地仏として祀られていた。

西へ久能山東照宮・駿府城・位牌のある岡崎の大樹寺が一直線に並び、ネットによると拝殿から赤い

高麗縁の畳が敷かれた石の間を通して本殿を参拝すると、その先の北東方向に神廟(墓所)・富士山頂・日光東照宮が一直線に並ぶそうである。

日本平ロープウェイ社長の尽力で復活

久能山は海岸に直面して黒潮の影響で冬も暖かく、植生も伊豆半島や紀伊半島と同じ暖帯クス・シイ帯に属している。海岸植物も多く侵入し、約500種の草木がある。樹齢500年の古木のクスノキもあり、巨木は大抵タブノキかクスノキである。スギ・ヒノキはほとんど実生で、キンモクセイの大木もある。1673年に渡来したという久能の唐椿(トウツバキ)を日本平ロープウェイ社長の尽力で復活させた話や、家康が梅を好んだことから、1876年に、勝海舟が徳川慶喜に頼んで駿府城から移した白梅の「実割梅」について山岡鉄舟・勝海舟の筆跡を写した石碑も紹介された。斜面管理の難しさやヤブラン・ヤマユリ・シヤガ等の下草の手入れの話も出て、その後、正式参拝。神廟と博物館を巡り終了した。

文責：岡村 穰



次回予告【第26回中部定例研究会】

- ◆日時：2010年6月19日(土) 13:30~16:00
- ◆集合場所：足助八幡宮・社務所前(豊田市足助町字宮ノ後13 Tel 0565-62-0516)
- ◆テーマ：足助八幡宮の社叢
- ◆話題提供：安藤 芳行 宮司 他(調整中) 足助八幡宮 宮司 他(調整中)
- ◆コメンテータ：未定

社叢管理実験を継続

地球環境基金の助成金を得て

社叢学会は、一昨年より地球環境基金の助成金を得て、「市街地における社叢（歴史的緑地）管理の実態調査と管理手法の確立」事業を進めてきましたが、今年度も継続して事業に取り組むことになりました。

これまで、①西日本で被害が深刻化し、歴史的景観を危機にさらしているカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害を受けた社叢の修復と、被害を受けにくい社叢づくり：伏見稲荷大社 ②適正な管理が不足しているために、タケ・ササやシュロが増殖し、生物多様性が失われつつある社叢の多様性復活：千葉県内の社叢 ③地域の都市環境の向上と環境教育の場ともなる社叢づくり：城山八幡宮(名古屋市) ④落葉や枝葉の焼却による環境への負担軽減のための迅速な腐葉土化：秩父神社 の4点を進めてきましたが、今年度も引き続き、各実験区での管理作業等を実施します。

特に③については金山神社(松戸市)に管理実験区を設置し、まずはびこっている有害植物除去作業を行ったあと、地域にふさわしい植生の社叢を復活させるための幼樹の栽培等を進める予定です。

実験区を設置した社叢では、管理作業を手掛けるヴォランティア募集を、「鎮守の森だより」やホームページで呼び掛けることがあります。ご関心の向きは事務局までご連絡ください。

事務局から

- 平成20年度(2008年4月～2009年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。今年度から、払込手数料をご負担いただくことになりました。払込には銀行振り込みもご利用いただけます。三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通口座 6720345 特定非営利活動法人社叢学会 理事長 上田正昭 です。学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしく願いいたします。入金の確認をいたしましたら、会員証をお送りいたします。

- 今年も社叢インストラクター養成セミナーを開催いたします。わが国を代表する研究者から、少人数で行き届いた指導を受けることのできるまたとない機会です。皆さまのご受講をお待ちしております。
- 家電、住宅ともにエコポイントを習得され、各種の特典と交換されました後に残った端数のポイントは、ぜひ、「環境団体へ寄付」を選択いただき、寄付先に社叢学会をご指定ください。また、昨年度にご寄付を下さいました皆さま、ありがとうございました。

編集後記

今年こそ“まおちゃんorヨナさん(=ノームス)”で！ と思っていた『社叢学研究』。発送が終わってやれやれと思っていると藺田副理事長から“誤植訂正の件”とゆうMailが。。。嗚呼。校正の時はちゃ～んとなっていたのになあ。。。まったくもって、申し訳ありません。以後、気をつけます。ってアンタ、耳たこセリフを重ねがさね。誰かさんの「反省してま～す！」みたいじゃん。

気を取り直して年度末処理やら総会準備やら。ばたばたばたばた。と、地球環境基金から助成金決定のお知らせが。はあ。いえ、とってもありがたいんですよ、ホントに。これがなければどうしようかってなもんですから。でもね、やたら面倒なんですよ、膨大な紙を提出しなきゃいけないし。たった1行だけ印字した紙を何枚もコピーしていると何だかなあと思ひマス。(藤岡 郁)

お詫びと訂正

『社叢学研究』8号9頁上段の「4-7 大和盆地の宗教的風土の分析的枠組み」の右端「志向的真実のレベル」欄が間違っておりました。訂正シールを同封いたしましたので、お手数ですが、該当欄に貼りつけてくださいますようお願いいたします。誠に申し訳ありませんでした。

一宮研究会を開催

5月29日(土) 19:30～ 奈良県文化会館で 奮ってご参加ください!

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916
URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp

社叢学会関東支部 〒368-0041 埼玉県秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasou@macrovision.co.jp